

- 5 青少年教育指導者等の養成及び資質向上に関する事業
 ア 青少年教育指導者等の養成・研修事業
 a 自然体験活動指導者（NEAL）養成事業

令和7年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業
 自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年11月1日（土）～3日（月・祝） 2泊3日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 年度末年齢16歳以上（高校生以上）の方 8名（社会人6名、学生2名）

〔担当職員〕 高山 雄也、中里 文彦、戸越 信吾

1) 事業の趣旨

自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者（NEALリーダー）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅰ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成します。

2) SDGsで目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 質の高い自然体験活動を提供できる指導者を養成します。 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう 参加者同士の交流を深めながら、お互いに切磋琢磨できる関係性を築きます。
---	---	---

3) 研修プログラム

1日目 11月1日(土)	2日目 11月2日(日)	3日目 11月3日(月・祝)
10:15 開会式 10:30 ガイダンス 11:00 講義・実習 【写真1】 「自然体験活動の技術Ⅰ」 (テント設営) 12:00 昼食(持参弁当) 13:00 講義・実習 【写真2】 「自然体験活動の技術Ⅱ」 (オリエンテーリング) 15:00 講義・実習 【写真3】 (野外炊事、ナンカレー) ※夕食含む 19:00 入浴、休憩 21:30 就寝 (テント泊)	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン) 8:30 テント撤収 9:00 講義・実習 【写真4】 「青少年教育における体験活動」 10:30 講義・実習 【写真5】 「対象者理解」 12:00 昼食(レストラン) 13:00 講義・演習 【写真6】 「自然体験活動の特質」 16:00 講義・演習 【写真7】 「自然体験活動の指導Ⅰ」 17:00 夕べのつどい 夕食(レストラン) 18:30 講義・演習 「自然体験活動の指導Ⅱ」 19:00 入浴、休憩 20:00 情報交換会 21:30 就寝	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン) 8:45 宿泊室点検 9:00 講義・演習 【写真8】 「自然体験活動の安全管理」 12:00 昼食(レストラン) 13:00 ガイダンス 13:30 修了試験 14:10 閉会式

4) 事業展開

① 体験活動の技術Ⅰ【写真1】



テント泊のため、テントを設営しました。どこに張るのが良いかを考えながら、協力してテントを張りました。

② 体験活動の技術Ⅱ【写真2】



夕食作りに向けて、食材ゲットオリエンテーリングを体験しました。受講者は真剣に食材カードを探していました。

③ 自然体験活動の技術Ⅲ【写真3】



野外炊事でナンカレーを作る体験をしました。各自に与えられた役割を果たしながら、協力して夕食を作りました。

④ 青少年における体験活動【写真4】



青少年教育の現状や課題等について、資料やデータを読み込み、意見交換をしながら学びを深めました。

⑤ 対象者理解【写真5】



体験活動の指導者として必要な対象者理解について、ワークや話し合いを交えながら講義を行いました。対象者理解は事前だけでなくキャンプ当日も続くことを学びました。

⑥ 自然体験活動の特質【写真6】



屋外での活動を入れながら、講義を進めました。過去の事業の例を出し、自然の中でどのように青少年と関わったら良いかを学びました。

⑦ 自然体験活動の指導【写真7】



実際に指導にあたる際の留意点などを、イニシアティブゲームに参加し、実践形式で学ぶことができました。

⑧ 自然体験活動の安全管理【写真8】



自然体験活動中におけるリスクについての講義を行った後、心肺蘇生法をよくある場面をシミュレーションしながら学びました。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
75%	25%	0%	0%

② 参加者の声

- ・様々な立場の人が集まったの研修会で、新たな視点をたくさん得ることができた。
- ・参加者それぞれの願いや思いに合わせた内容と活動で、実り多い2泊3日だった。
- ・指導者（スタッフ）の体験談をもっと聞きたかった。
- ・書籍など、各自で知見を広められるような紹介があっても良いと思った。

6) 成果と課題

① 成果

- ・意見交換の時間を多めに取り入れ、参加者同士の交流を深められたことで、カリキュラム内容以外の学びも多く、満足度は高かった。
- ・諫早自然の家と関わりのある講師に依頼をしたことで、事例紹介が細かく行われた。
- ・講義内で時間に余裕があった際は、追加で情報を提供することもでき、参加者の学びをより充実させることができた。
- ・少人数での開催だったからこそ、交流の時間や意見交換が活発だった。

② 課題

- ・参加者が普段から子どもの指導にあたっている方が多かったため、普段の指導方法などを共有できる場を講義内で取り入れるべきだった。
- ・技術のコマでは危険な場面も少しあり、声掛けを行なう行動やタイミングの基準を設けておくとう良かった。
- ・夜の時間に余裕があったため、カリキュラム以外の活動を取り入れてもよかったように思う。
- ・今回は学校や関係機関を中心に広報を行ったが、申し込みを増やすためには新たな広報先の開

拓が必要だった。